

せたな町誕生10周年の節目を迎えて

せたな町長 高橋貞光

新年あけましておめでとうござい
ます。皆さまには希望に満ちた平成27年
の新春を迎えられましたことを心よ
りお慶び申し上げます。また、日頃
より町政に対し多大なご支援をいた
だいておりますことに感謝申し上げ
ます。

せたな町は平成17年に合併以来、
今年で10年を迎えることになりま
す。振り返りますと大成区では水道
整備、漁協の製氷施設、診療所。瀬
棚区では町道島歌線の舗装、障害者
地域活動支援センター、せたな雅荘、
漁協冷蔵庫。北檜山区では徳島公営
住宅2棟16戸、障害者グループホー
ム、し尿処理のミックス処理施設を
整備したほか、消防については26年、
27年度の2か年で本署、支署を改築
いたします。農業は農地整備や施設
など、漁業は漁港、放流事業、施設
林業では作業道延長など産業基盤の
強化を図ることができました。

また、ソフト面では障害者のため
の相談支援事業所の開設、高齢者の
見守りをする支援員の配置、福祉灯
油の制度化など、高齢者、障害者、低
所得者対策をはじめ、住宅リフォーム、
定住促進対策の新築、中古住宅
への支援、子育て支援としては高校
生までの通院と中学生までの入院医
療費の無料化、保育料の引き下げ、

中学生の生活習慣病検診を実施して
きました。産業振興につきましたは
担い手対策、農業塾、前浜対策、商工
業者への利子補給、観光施設の自立
に向けた支援等を図ってきました。

せたな町が強く要望していたドク
ターヘリもいよいよ2月16日運航が
開始。3月には大成診療所がオーブ
ンいたします。

町民の皆さまには10年という経過
のなかで、合併時に比べさまざまな
分野で行政サービスが向上したこと
を実感いただいているものと思いま
す。

一方、新町最大の課題でありまし
た財政再建ですが、引き継いだ21
2億円の借金も26年度末では140
億円と、72億円の削減が図られ、職
員等の給与カットや定数の削減と身
を削る改革を進めた結果、危機は脱
し、予定どおり健全化に向けた歩み
を確実なものとしております。とも
すれば、合併町であるがゆえの地域
エゴに翻弄され、まちづくりが進ま
ない中であって、せたな町は多くの
町民の皆さまはじめ、議会や各行政
組織の皆さまの良識あるご支援と職
員の献身的な働きによって今日の姿
があることを考えると、愛町精神に
よる協働のまちづくりの成果と言っ
ても過言ではありません。

さて、次の10年ですが、高齢化と

人口減少に加え交付税の削減がいよ
いよ現実なものとなります。これか
ら民間と行政がそれぞれの責任を
果たし、選択と集中によるコンパク
トな行政を目指すことで、この生ま
れ育った郷土を守り、発展させ、安
心して暮らせる環境づくりを皆さま
とともに進めたいと考えておりま
す。

結びになりますが、せたな町は10
周年と言う節目の年を迎えたところ
であります。記念式典をはじめ、さ
まざまな記念事業を計画実施して皆
さまと一緒に祝いできますことを
楽しみにしております。

これまでも皆さまのご理解とご協
力のもと町政を推進してまいりまし
たが、新年も時代の流れを的確に捉
え、皆さまの期待に応えることがで
きるよう、なお一層の努力をしてま
いる所存でございますので、変わら
ぬご指導、ご支援を賜りますようお
願い申し上げます。

町民の皆さまには本年もご多幸
で、そしてご健康でありますよう心
よりお祈り申し上げます。年頭のごあい
さつといたします。

豊かな人間性と文化を育むまちへ

せたな町教育委員会教育長 成田円裕

新年明けましておめでとう。ごいいます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。皆さまには、日頃より教育の振興に對し多大なご支援、ご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

今、国では教育委員会制度の見直し、いじめ防止対策推進法の制定、道徳及び小学校での英語の教科化などの教育改革が進められております。本町においても第1次せたな町教育推進計画策定から5年が経過し、中期的な見直しを図るため、関係各位・団体の協力を賜りながら、第2次推進計画の策定を進めております。

昨年を振り返りますと、学力・学習状況では、小・中学校、教科によって多少の違いはありますが、知識を問うA問題は全道・全国平均にほぼ達しているものの、活用力を問うB問題では、より一層の向上が求められるところです。町教委では「学力向上改善プラン」を策定し、町教委や学校の重点推進事項を明らかにするとともに、必要な環境整備や支援事業に努めております。教育環境整備では、特にICT(情報通信技術)機器の整備を図りました。そのなかで、教育効果を上げる機器の一つとして注目される実物投影機などを

町内小中学校の全ての学級に整備し、授業や特別活動等で積極的に活用されており、今後、一層有効な活用が図られることを期待しております。

学校適正配置では、本町においても少子化が進むなか、児童数減少のため、玉川小学校と小倉山小学校の二つの歴史ある小学校が今年度をもって閉校することとなりました。同窓生や学校関係者、地域の方々にとつては惜別の念いかばかりかと推察いたしますが、築いてきた伝統と校風は長く受け継がれていくものと確信しています。これまで献身的なご支援とご協力をいただきました皆さまに感謝申し上げます。社会教育では、生涯学習を促進する社会教育活動、青少年の健全育成、芸術・文化・スポーツの振興等を推進してまいりました。昨年は合併10周年プレ

事業として、小中学生対象のサッカーや野球の一流講師による指導や講話、「千の風になって」の作者である新井満氏による文化講演会を実施しました。8月には京都大学交響楽団コンサートを開催し、小中学生は本物の音楽に触れる機会を得ることができました。これからもさまざまな事業を展開してまいりますので町民の皆さまの積極的な参加をお待ちしております。

今後とも、町総合計画並びに教育推進計画に則って、中・長期的展望を見据えながら、「豊かな人間性と文化を育むまち」づくりに努めてまいります。町民の皆さまにおかれましては、これまでの皆さまにご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。今年が辛多き年となることを心からお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

新年度から議会を動画配信

せたな町議会議長 菅原義幸

平成27年の年頭にあたり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。平成17年9月1日に旧3町が合併し、新しく「せたな町」が誕生しました。今年は合併10周年を迎える節目の年に当たります。

この10年間を顧みて、特記すべきことの第1は、財政健全化の実現です。合併時に抱えていた212億円の借金は72億円減少し、貯金は28億円増えました。その一方で税金や負担金の増額と子どもの医療費や保育料などを除く行政サービスの削減を町民にお願いする結果となりました。第2は、人口の大幅な減少です。合併時の1万1023人から、昨年11月末現在で

2173人減少し、8850人となり、高齢化率も40%を超えました。基幹産業の一つである漁業の水揚げも平成18年の23億円から半減しており、他業種も同様の傾向にあります。

これは、今後のまちづくりの課題について鋭く問いかけるものであり、町議会の責任の大きさを痛感しております。そのなかで、昨年の議会活動において、新たな試みがありました。

一つは、議会の公開です。議場で行われる議会は、これまで、議場での傍聴のほか、大成・瀬棚両総合支所を含む役場ロビーでモニター放映してきましたが、新年度からはインターネットでの動画配信を行うことになりました。

もう一つは、全員参加による勉強会の開催です。テーマは特定秘密保護法、成年後

見人制度、町立国保病院の現状と未来。北海道新幹線開業を見据えた地域の活性化、せたな町における陸上風車の建設計画など、多岐にわたっています。

また、議員の政務活動として、地域サロン(鷹栖町)、高齢者向け公営住宅(南富良野町・函館市)の視察や自治体学土曜講座(札幌市)、6次産業化に向けた研修(札幌)、函館水産試験場による「スルメイカ」に関する講義などにも参加しました。こうした取り組みは、今後の議会活動に反映されるものと思えます。

議員は町民の代弁者であり、町民の声を行政に届ける責任があります。また、行政に対する批判監督責任も負っており、職務職責を深く自覚し、今後とも全力を尽くす決意です。

今年もどうぞよろしくお願いたします。